古石ひでさと5期目に向かっての議会活動　ひでさと

# 古　石

後援会だより

URL：http://古石.com/

第３２７０号
発行日　令和２年７月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

どうみん割ＧＯＴＯ 観光支援へ

新型コロナと生きる

「どうみん割」「Ｇｏ Ｔｏ」…

# 観光支援 助成制度多彩に

## 電話やネットで申し込み クーポン利用の事業も

コロナ禍でたまった疲れを、旅行でスカッと解消したいと思う人も多いはず。そうした中、道民の旅行を後押ししようと、道が旅行代金を助成する「どうみん割」を始めたほか、道内の各自治体もさまざまな観光支援事業を打ち出している。これに加え、22日からは国の「Ｇｏ Ｔｏ トラベル」事業がスタートする。「どうみん割」は予約が殺到するなど混乱もみられた。「Ｇｏ Ｔｏ」は開始直前に割引対象が変更されるなど迷走した。改めて、それぞれの事業の内容や利用方法をまとめた。（酒谷信子）

「どうみん割」は道内在住者が対象。１泊６千円以上１万円未満は３千円、１万円以上１万５千円未満は５千円など、旅行代金の最大半額を割り引く（上限は１泊１万円）。日帰り旅行やアウトドア体験ツアーも最大５千円割引きされる。既に１次枠、２次枠がそれぞれ発売され、最終となる３次枠の予約が24日に始まる。

利用希望者は、各旅行会社や宿泊施設に電話やインターネットで直接申し込み、「どうみん割」用に用意されたプランを予約する。利用時は全員分の身分証明書が必要（保護者同伴の中学生以下を除く）。ただ、事業者によっては他に安いプランがあったり、他の宿泊予約サイトを利用しても同程度の料金で予約できる場合がある。

「どうみん割」は６月下旬に予約が始まったが、大きな反響があり、対象商品の完売が相次ぎ、道は特別追加枠を設けるなどして対応。道民からは「助成枠が足りない」などの不満の声が漏れた。

**「対象外」をカバー**

「どうみん割」以外にも、道内の各自治体が宿泊代金割引などの観光支援事業＝グラフィック＝を実施している。利用方法は各自治体により異なるが、参加する事業者に直接申し込むか、地域で使えるクーポン券を取得して宿泊施設などで使用する場合が大半。自治体や観光協会がホームページ（ＨＰ）に特設サイトを設け、対象施設や利用方法を紹介するところもある。

十勝管内鹿追町のように、「どうみん割」の対象から外れた観光商品を助成する自治体もある。同町は１泊６千円未満の宿泊に千～２千円を、熱気球や犬ぞりなどのアウトドア体験に２千～１万円を助成（来年１月末まで）。「町内を訪れた人に、『どうみん割』の対象になるかどうかを気にせず、観光を満喫してほしい」（同町商工観光課）としている。

**領収書原本を保管**

国の「Ｇｏ Ｔｏ トラベル」は、旅行代金の半額相当を助成する。上限は１泊当たり２万円。旅行代金の35％を割り引き、15％を地域で使えるクーポン券として配布する（配布は９月以降）。予算額は１兆３５００億円。

キャンペーンは22日にスタートし、同日以降の旅行が助成の対象になる。予約サイトなどで割引商品を購入できるのは27日以降になる。すでに予約した22日～８月末までの旅行などについては、利用した旅行会社や宿泊施設が後に「Ｇｏ Ｔｏ」の登録をするなど一定の要件を満たし、利用者が所定の手続きを行えば、割引相当分（代金の35％）の還付を受けられる。還付手続きの詳細は今後、「Ｇｏ Ｔｏ」事務局のＨＰで示されるが、領収書の原本を保管しておき、宿泊を伴う場合は「宿泊証明書」を宿泊施設で発行してもらう必要がある。

首都圏を中心に感染者が再び増える中、「Ｇｏ Ｔｏ」は、東京発着の旅行を除外したり、赤羽一嘉国土交通相が若者や高齢者の団体旅行は「控えてもらうことが望ましい」との考えを示すなどしてスタートすることになった。今後も感染状況により変更される可能性もある。

**感染防止に留意を**

「どうみん割」は「Ｇｏ Ｔｏ」など他の割引制度との併用はできない。「Ｇｏ Ｔｏ」との併用については、各自治体の判断に委ねられている。「コロナの感染が広がってきている現状では、併用は慎重に考えざるを得ない」（道東の自治体）とする自治体もある。

旅行による感染リスクを下げるため、観光庁は「新しい旅のエチケット」としてマスク着用や手洗いの励行に加え、交通機関の利用中や食事中は「おしゃべりを控えめにする」よう呼びかけている。

**国や自治体、観光地による旅行代金等の主な助成制度**　※各事業ともに人数や宿泊数などに限りがあります

| | | 対象者 | 内容 | 期間 | 問い合わせ先 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国（Go Toトラベル） | | 制限なし（ただし、東京都民は当面、対象外） | 旅行代金の35％を助成（上限１泊１万４千円、日帰りは７千円）。９月以降は地域で使えるクーポン券も配布 | 22日～来年３月末まで（18日現在） | 03・3548・0520 |
| 道（どうみん割） | | 道民 | 旅行代金の最大半額（上限１泊１万円）を助成 | 来年１月末まで | 011・208・7002 |
| 札幌市 | | 制限なし | １泊６千円以上の宿泊に５千円を助成 | 23日～８月末（20万泊に達すると終了） | 0570・666・556 |
| 札幌・定山渓エリア | | 札幌市民 | 宿泊者に宿泊や買い物に使える２千円分のクーポンをプレゼント | 先着５万人 | 011・598・2012 |
| 釧路市 | | 道民 | 宿泊施設に１人１泊３千円を補助（各施設は宿泊費や食事代など３千円相当のサービスを提供） | ８月末まで | 0154・31・4549 |
| 帯広市 | | 制限なし | １泊３千円（６千円未満の場合は半額）を助成 | 来年２月末まで | 0155・22・8600 |
| 北見市 | | 制限なし | 宿泊費の半額を助成。１泊３千円（市民は１泊５千円）が上限 | 12月末まで（6500万円に達すると終了） | 0157・25・1244 |
| 網走市 | | 制限なし | 楽天トラベルのサイトでクーポンを取得して予約すると、１泊最大２万円割引 | ８月23日まで（950泊に達すると終了） | 0152・44・5849 |
| 上川管内 | 美瑛町 | 制限なし | １泊３千円を助成 | 来年２月末まで（１万泊に達すると終了） | 0166・92・3910 |
| 上川管内 | 上富良野町 | 制限なし | 宿泊費の半額を助成。上限は１泊５千円（町民は宿泊費の６割を助成。１泊６千円が上限） | 10月末まで（町外６千泊、町民300泊に達すると終了） | 0167・45・3150 |
| オホーツク管内 | 佐呂間町 | 制限なし | 町内で使える２千円分の商品券を宿泊者にプレゼント | 来年３月末まで | 01587・2・1200 |
| オホーツク管内 | 遠軽町 | 町民以外 | 町内で２連泊以上すると、１人につき５千円キャッシュバックなど | ９月末まで（千人限定） | 0158・42・8360 |
| 十勝管内 | 鹿追町 | 道民 | １泊２千円～６千円未満の宿泊に千～２千円を助成など | どうみん割と同期間 | 0156・66・4034 |
| 十勝管内 | 音更町 | 十勝管内在住者 | １泊２千円を助成 | ２万５千泊に達すると終了 | 0155・32・6633 |
| 十勝管内 | 新得町 | 十勝管内在住者 | 町内の宿泊施設などで５千円以上利用すると、町内で使える５千円の券を贈る | 26日まで | 0156・64・0522 |
| 十勝管内 | 幕別町 | 町民 | 宿泊費の半額を助成（上限５千円） | 来年３月まで（５千泊に達すると終了） | 0155・54・6606 |

旅行代金の35％を割り引き、15％を地域で使えるクーポン券として配布する「どうみん割」＝道東の自治体

旭医大で医薬品入りの保冷ケースが取り付けられ、近くの老人ホームに向けて離陸するドローン（西野正史撮影）

## ドローン 患者に医薬品配送

### アイン、ＡＮＡ、旭医大

### 全国初 非対面医療で実験

【旭川】調剤薬局大手のアインホールディングス（札幌）とＡＮＡホールディングス（東京）などは19日、小型無人機ドローンを使った医薬品の配送実験を旭川市の旭川医科大で行った。新型コロナウイルスの影響で通院困難な人が増える中、オンライン診療からドローン配送まで非対面医療を再現するのは全国で初めて。

実験では、旭医大病院の医師がビデオ通話システムを通じて、市内の特別養護老人ホーム「緑が丘あさひ園」の糖尿病の高齢患者に低血糖の症状を確認し、インスリンの継続処方が必要と診断。病院からファクスされた処方箋に基づき、アイン薬局の薬剤師が注射時の注意点などを伝えた。

ドローンはＡＮＡパイロットの操作で旭医大から飛び立つと、５００㍍離れたあさひ園に約５分で到着。19日の市内は最高気温31度だったが、医薬品は保冷された箱に封入されており、品質に問題はなかった。

オンライン診療はコロナ禍に伴う時限措置として今年４月、国が初診から行うことを認めた。人口減少による医療過疎地の増加や相次ぐ災害もあり、北海道経済産業局の安藤保彦局長は「国は2022年度のドローン輸送の実用化を目指している。成果を検証し、離島や山間地での導入も検討したい」と話した。

あさひ園を運営する旭川三和会の進藤順哉理事長は「医療機関へのＰＣＲ検査の検体輸送にもドローンが活用できれば」と期待した。（小林史明）